

われらの道



令和6年9月25日発行

文責 附属中 加藤克人

第2回事前研究会

8月23日に行われた第2回事前研究会では、11月30日実施予定の公開研究会に向けて指導案検討を行いました。教科ごと、当日の授業がよりよくなるように、大学の先生をはじめ多くの先生方にご意見、ご指導をいただきました。

「新たな価値を創造する生徒の育成 ～『主体的な学び』のプロセスモデルを生かした実践を通して～」の研究主題のもと日々研究に取り組んでいます。今回、先生方からいただいたアドバイスやご指摘を参考に、さらにブラッシュアップさせ、研究を深めていきたいと思っています。



PTA 愛校作業

生徒会最大行事である桐龍祭に向けて8月25日に、早朝より多くの保護者の方に参加していただき、PTA愛校作業を行いました。雨の中、手の回らない場所まで、校庭の草取りをしていただきました。



校庭での体育部門の練習や授業、部活動が快適に、そして安全に実施できるように、丁寧に取り組んでいただきました。

この保護者の皆様の思いを受け、桐龍祭本番、生徒は精一杯、自分たちのもてる力を発揮しました。

桐龍祭

9月20日、21日の2日間、桐龍祭を行いました。文化部門は、生徒会本部役員との準備・運営、各部門・学年・学級での取組が示すように附属中生の力が集まり、大成功を収めることができました。それぞれの生徒が「今」すべきことに精一杯取り組めたと思います。



体育部門は、連日の暑さにも負けず、学級・ブロックが協力し、本番に向けて練習を重ねてきました。その結果、上手くいったこと、上手くいかなかったことの一つ一つが、個人の、クラスの、学年の、学校全体の力になったと思います。

若桐講座

第14回若桐講座を8月31日に実施しました。教育学部・工学部・医学部・生命環境学部の大学の先生方に研究されている内容について中学生にもわかるように講義していただきました。多くの保護者の方にも参加していただき、親子で



アカデミックなひと時を過ごしていただきました。

七十二候

今の季節は、

雷乃収声【かみなりすなわちこえをおさむ】

夏の間はよく鳴っていた雷が収まってくる頃。秋分以降は日ごとに日照時間が短くなり、秋の夜長となります。秋の「雷乃収声（かみなりすなわちこえをおさむ）」と春の春分の末候「雷乃発声（かみなりすなわちこえをはつ）」が対になっています。ふと空を見上げると晴れ渡る秋の空。夏の間には夕立を呼んできた大きな入道雲から、うろこ雲へと変わっていています。

蟄虫啓戸【おしかくれてとをふさぐ】

七十二候が秋分の次候に変わります。

春先の候「蟄虫啓戸（すごもりのおしとをひらく）」の逆で、寒い冬を前に虫たちが土の中に潜って巣ごもりを始める頃のこと。温かい土中でじっと春を待つ虫が再び姿を見せるのは約半年後の啓蟄の頃となります。